

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく実行団体公募要領

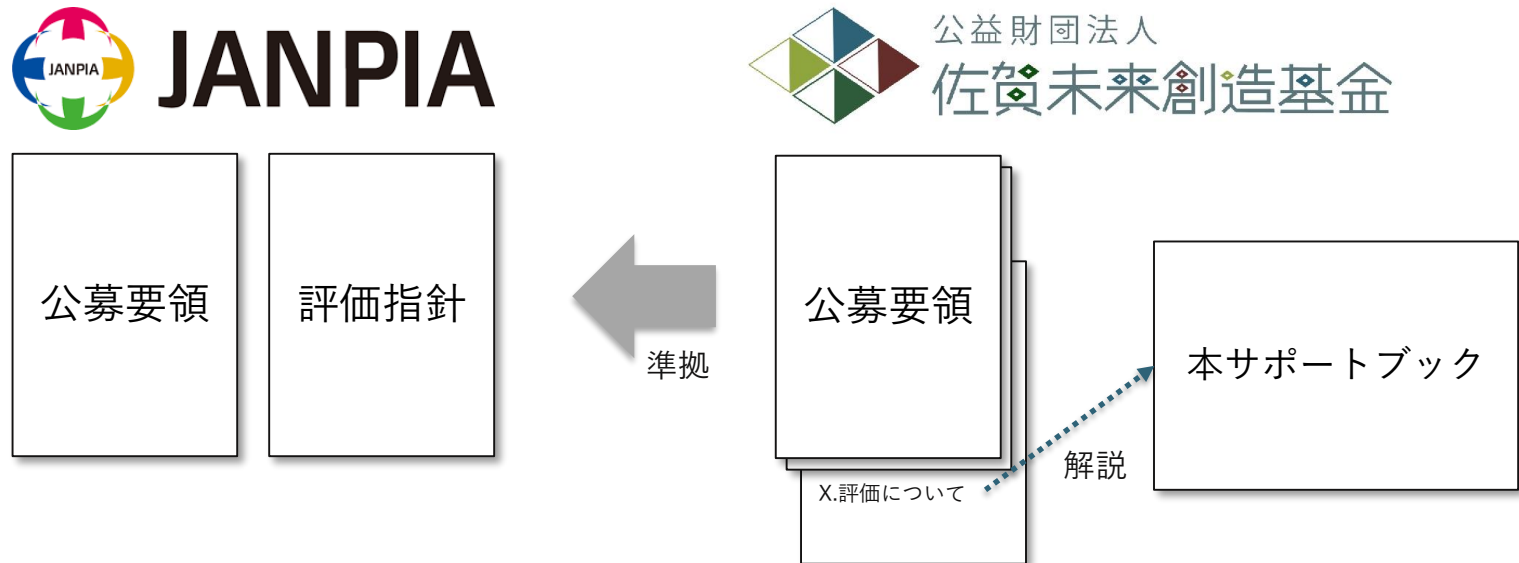
社会的インパクト評価について

特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン
伊藤枝里子

1-1 本サポートブックの位置づけ

本サポートブックは、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（以下JANPIA）が提供する公募要領および評価指針を元に作成された、公益財団法人佐賀未来創造基金発行の公募要領内評価ページの内容を補足、解説するものです。

内容は全てJANPIA発行の評価指針に準拠します。また、評価指針と本サポートブックの記載内容について解釈が分かれる部分が生じた場合は、評価指針の内容が優先されます。



自己紹介

伊藤枝里子

(特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン
事務局長)

北海道札幌市出身。小樽商科大学卒業。

大学卒業後、東京の中間支援であるNPO法人ETICにて、
地域への人材流動支援プログラムを担当。地方の中小企業
へのインターンシップ促進や、大学生の短期地域留学の
コーディネートを行う。

ある事業において、第三者機関からの社会的インパクト評
価（特にSROI）を受けたことがきっかけで評価の世界に
足を踏み入れる。

ETIC退職後、アメリカ・シアトルに所在する米国NPO法
人iLEAPでの修行を経て、ソーシャルバリュージャパンに
参画。社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ
メンバーシップタスクフォース・リーダーも務める。

SOCIAL VALUE
JAPAN

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative



2. 社会的インパクト評価とは



今日、これだけ言いたい！



評価って、楽しいものなんです！

2-1 社会的インパクトとは

「社会的インパクト」とは、実施した事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「変化」や「便益」等の「アウトカム（成果）」の集合体を指します。

■事業から社会的インパクトが生まれる流れ



アウトプットとは？

アウトプット（結果）とは、事業や活動により提供するモノやサービス（プログラムやイベント等）を指します。例えば、プログラムやイベントの実施がアウトプット、イベントの実施回数や参加者人数等がその達成を計る指標となります。

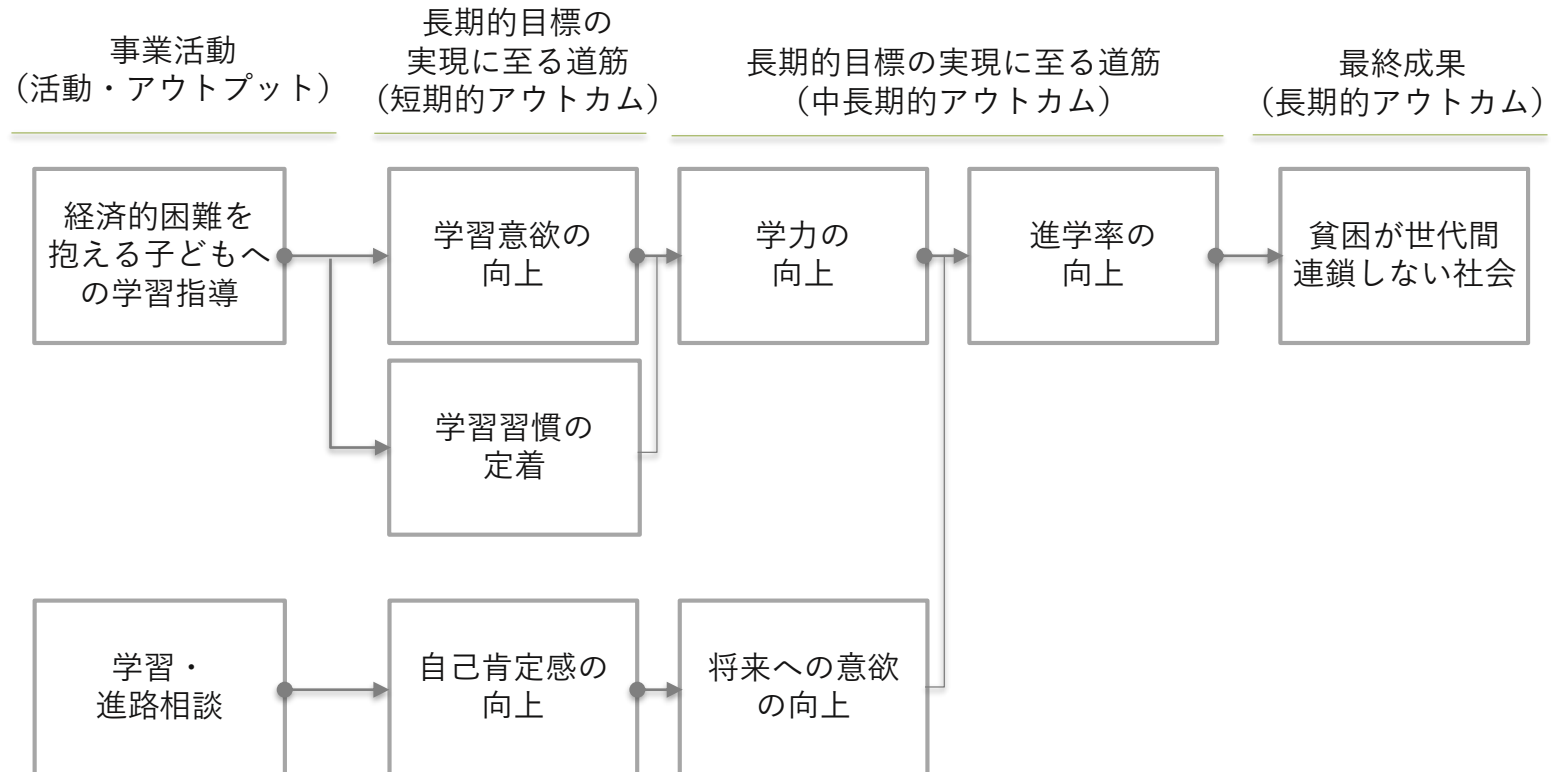
アウトカムとは？

アウトカムとは、提供されたモノやサービスによって生み出された「変化」や「便益」のことを指します。例えば、プログラム参加者の「自己肯定感の増加（心理的变化）」や「健康になったことによる病院の受診頻度の減少（医療コストの削減。社会的便益）」等が考えられます。

【参照】

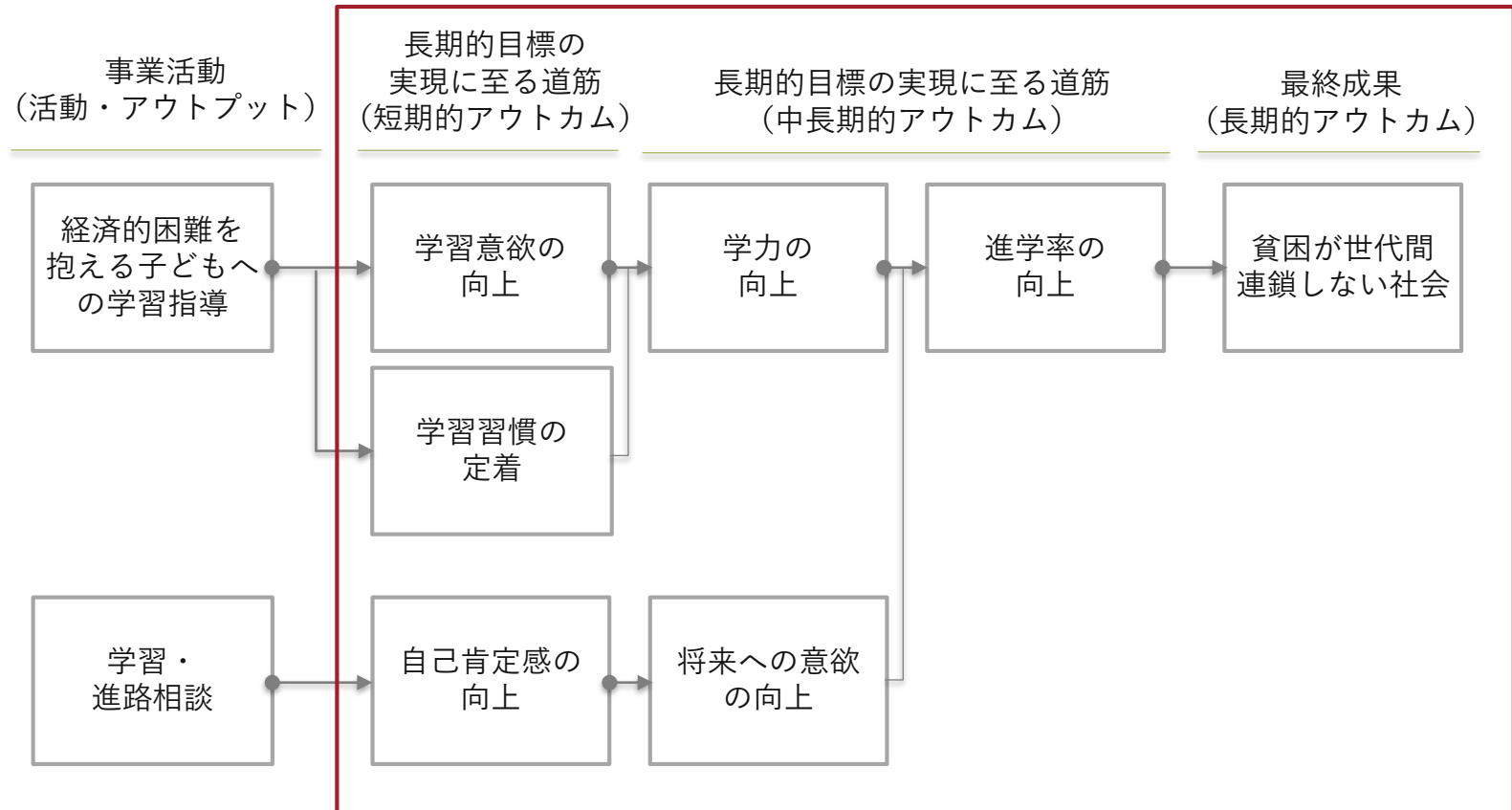
一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA) 評価指針 P6

(例：子供の貧困解決事業)



(例：子供の貧困解決事業)

社会的インパクト



4-2.インプット、アウトプット、アウトカム

② アウトプットとアウトカムの違い

アウトプットとアウトカムは、混同されやすいですが例えば以下のように整理することができます。

プログラム（例）	アウトプット（例）	アウトカム（例）
児童の交通安全教育	- 児童向け交通安全教室の実施 - 交通安全パンフレットの配布 - 保護者向け意識啓発動画の作成	児童の安全意識の向上
高齢者の見守りプログラム	- 他サービスと連携した高齢者宅訪問活動 - ヘルパー利用のための家族向け説明会の実施 - 住宅内の危険箇所点検運動（転倒防止等）	高齢者の安心・安全の確保
ニート・フリーター向け就業支援	- 就労支援プログラムの実施 - 証明写真撮影会 - 面接用スーツの貸し出し - 保護者向けコミュニティの場の運営	就業率の向上

平たい言葉で解釈すると、

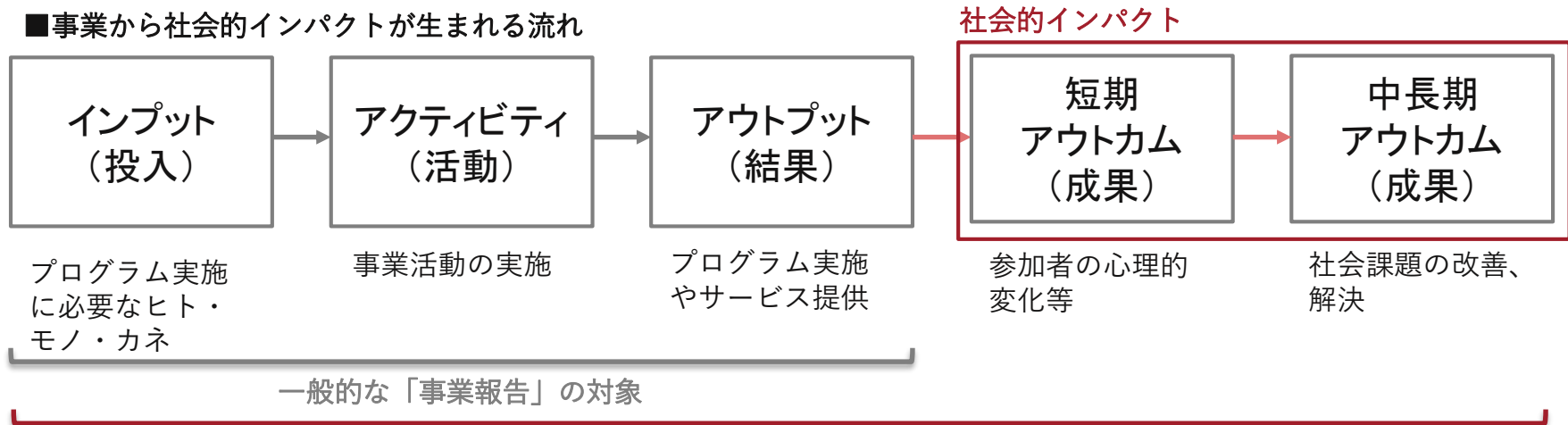
アウトプット＝実施した事業（事業の実施内容）→**具体的にやったこと**

アウトカム＝実施した事業によって発生した成果→**その結果、起ったこと**

という事ができます。

2-2 社会的インパクト評価とは

■事業から社会的インパクトが生まれる流れ

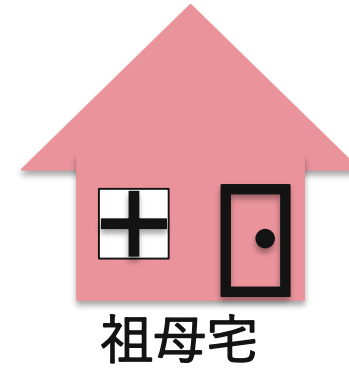


出所：内閣府共助社会づくり懇談会 社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ（2016）「社会的インパクト評価の推進に向けて」を元に一部改変

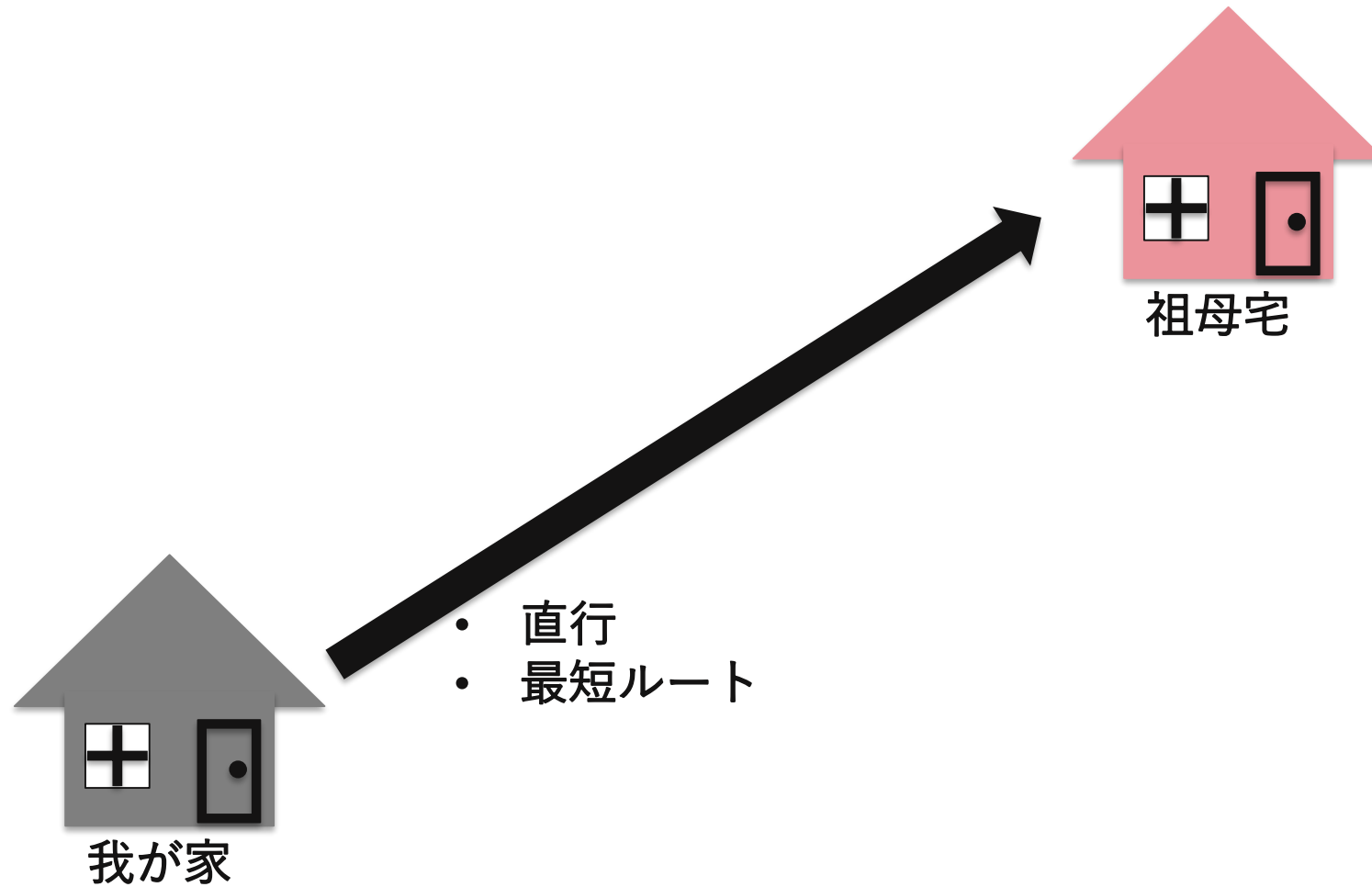
【参照】

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA) 評価指針 P6

2-3 評価を実施すると...

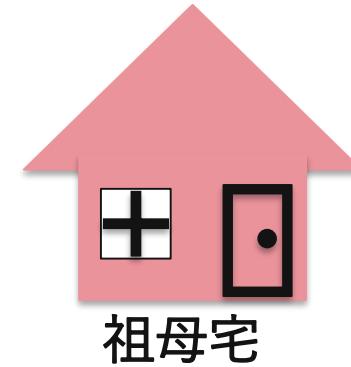


2-3評価を実施すると...



2-3評価を実施すると...

- 寄り道ルート

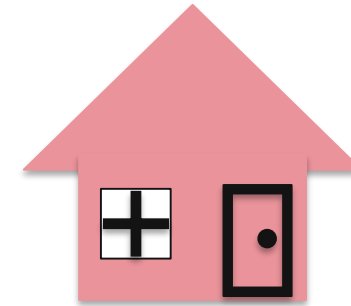


- 直行
- 最短ルート

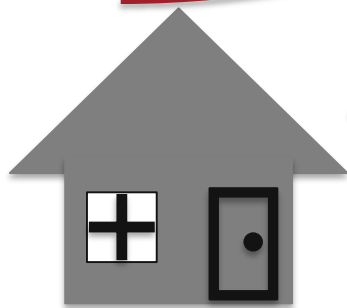


2-3評価を実施すると...

- 寄り道ルート

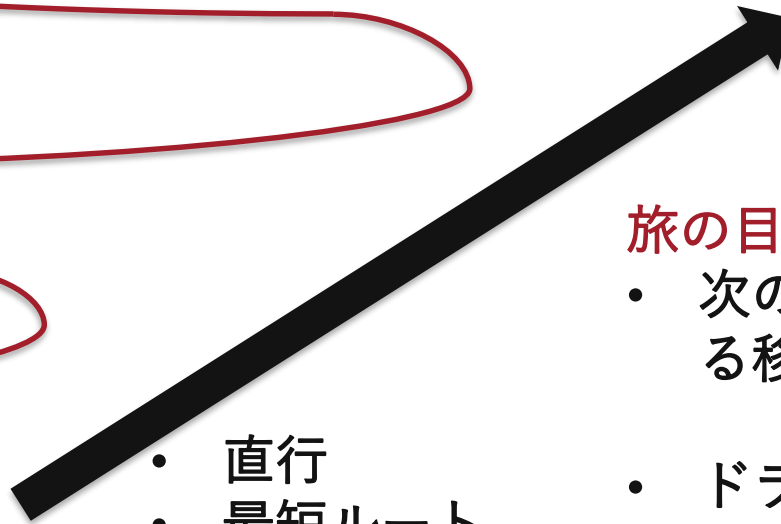


祖母宅



我が家

- 直行
- 最短ルート

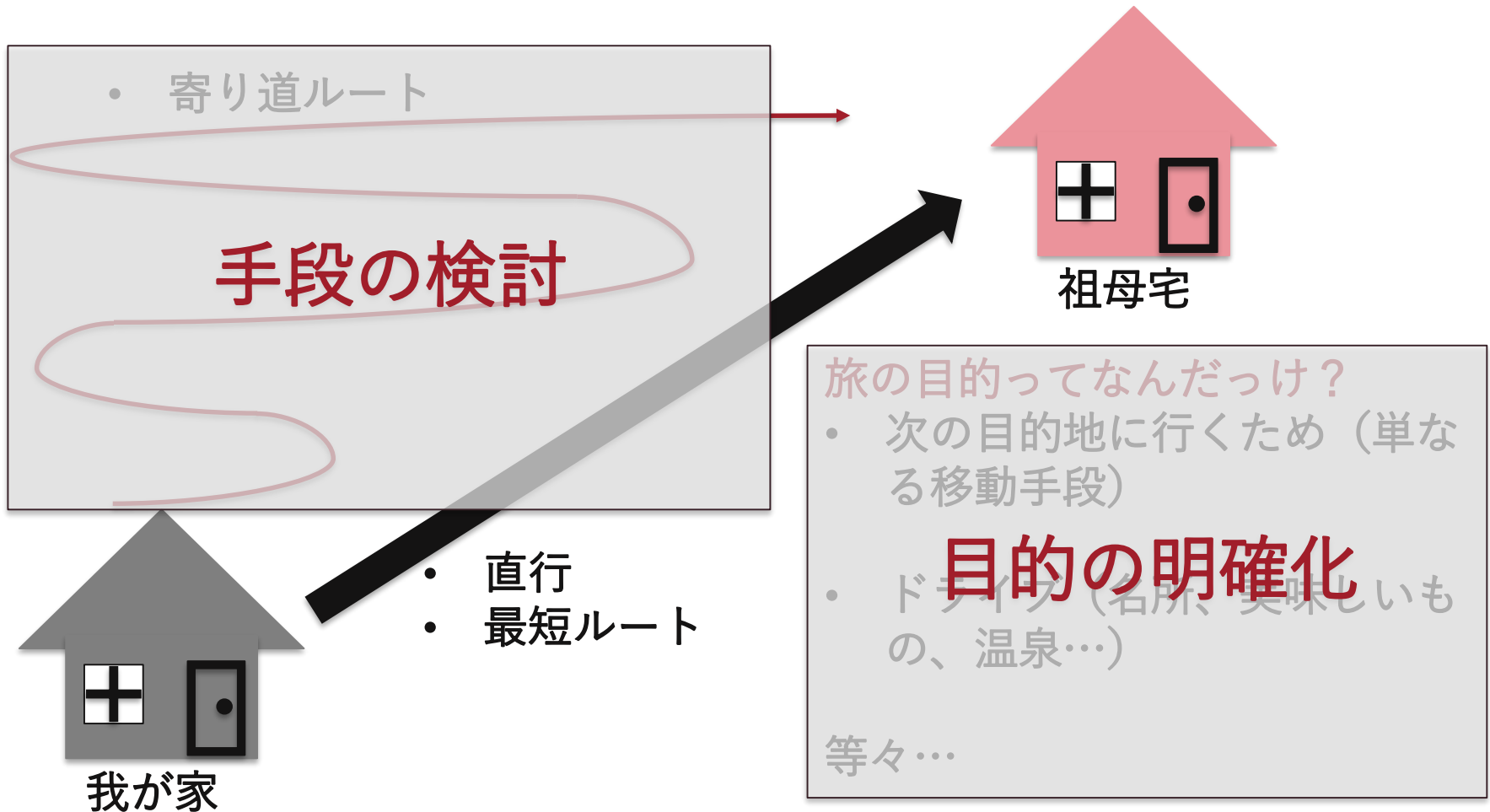


旅の目的ってなんだっけ？

- 次の目的地に行くため（単なる移動手段）
- ドライブ（名所、美味しいもの、温泉…）

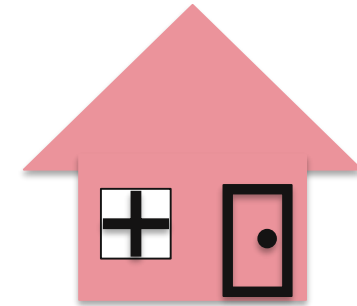
等々…

2-3評価を実施すると...



2-3 評価を実施すると...

- ・ 寄り道ルート

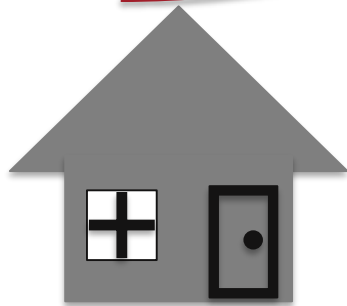


祖母宅



おばあちゃん

随分、遅かったわねえ...



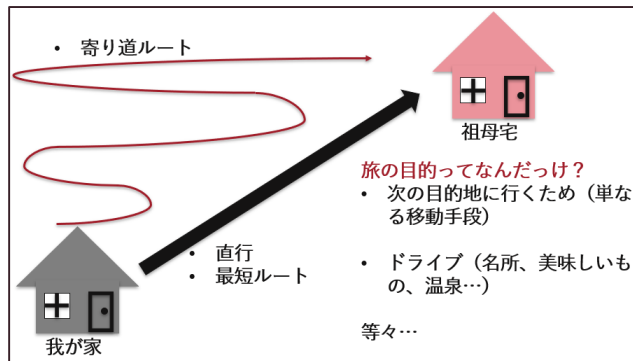
我が家

2-3 評価をやって、どんないい事があるの？



おばあちゃん
(スポンサーやステークホルダー)

随分、遅かったわねえ...



外部への共有と説明責任

- ・ 先に目的・手段を伝えておいた方がいい。
(ドライブがてら、のんびり行くよ)
- ・ 目的と照らし合わせて、どうだったかを伝えた方がいい。
(〇〇に寄って、良かったよ！)

事業の学びの振り返りと改善

- ・ 目的が共有されていると、「次回、どうしようか？」の話が早い。
(ちょっと大変だったから、次回は高速道路使った方がいいね…等)

2-3 評価をやって、どんないい事があるの？

良い事その①：外部への説明責任

- 団体の外部の人に対して、事業成果の説明が出来る。
- 目的、プロセス、目指す成果が明確になることで、協力者を巻き込みやすくなる。

良い事その②：内部の学びの振り返りと改善

- 団体の内部で、共有値が高まり、事業の振り返りを行いやすくなる。
- その結果、改善点を次の事業の反映させて、より良い事業を実施できる、好循環を団体内部に生み出すことが出来る。

2-3 社会的インパクト評価の目的

本事業は、国民の資産である休眠預金等を活用していることから、評価指針において「成果の発信により、広く国民の理解を得ること」、「評価結果の適切な反映による事業の効果・効率の向上」、「厳正な評価実施による事業の質向上・発掘・資金や人材獲得の促進」といった評価の目的が定められています。一方で、評価が過大な負荷にならないための配慮も認められており、これらを踏まえ、本事業においては以下の2つを評価の目的と定めます。

○ 説明責任（アカウンタビリティ）

本事業は、国民の資産である休眠預金等を活用して実施されます。そのため、事業や成果、およびそのプロセス、資金使途について適切に把握・発信し、これらの資金の投入が社会的な成果をどのように生み出したかを明らかにするために評価を活用します。

○ 事業改善のための学びと振り返り

事業の最終的な成果を振り返ることによって、実行団体の事業が助成期間終了後に次のステージに進み、社会的成果が増大されるよう、学びの整理を行います。中間評価等で得られた結果は事業の改善に生かし、社会的インパクトの最大化を図ります。

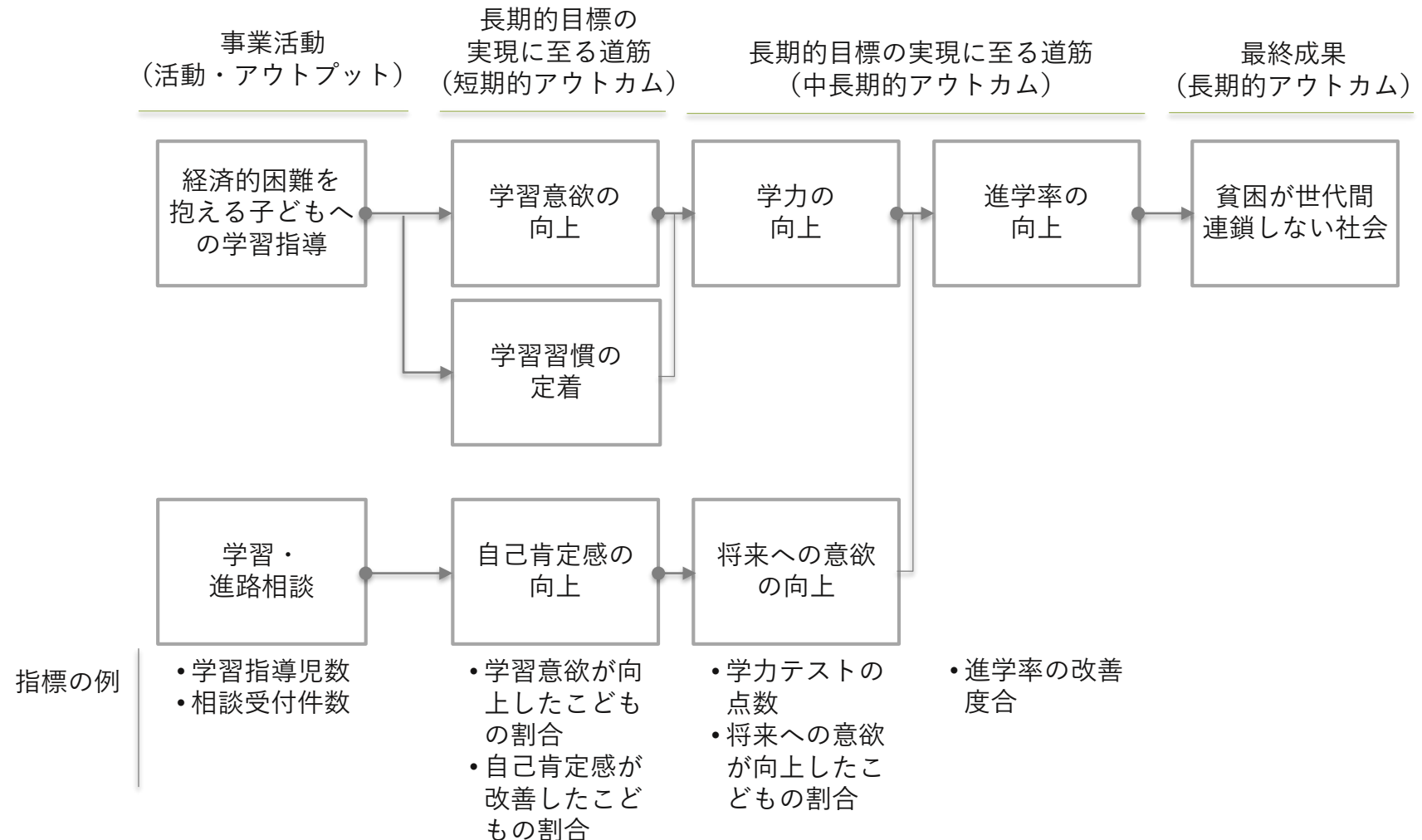
【参照】

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA） 評価指針 P6

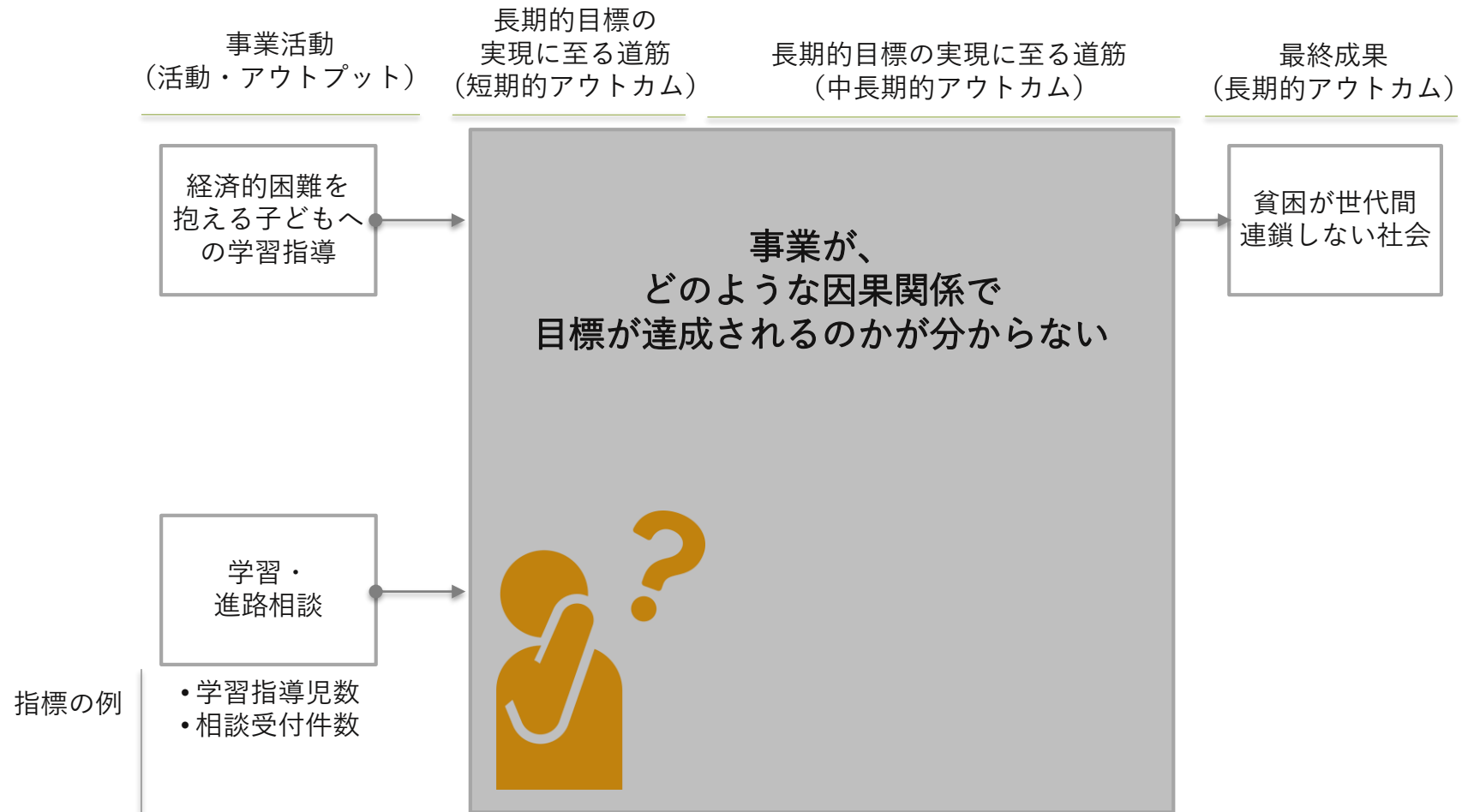


3. 社会的インパクトの評価方法

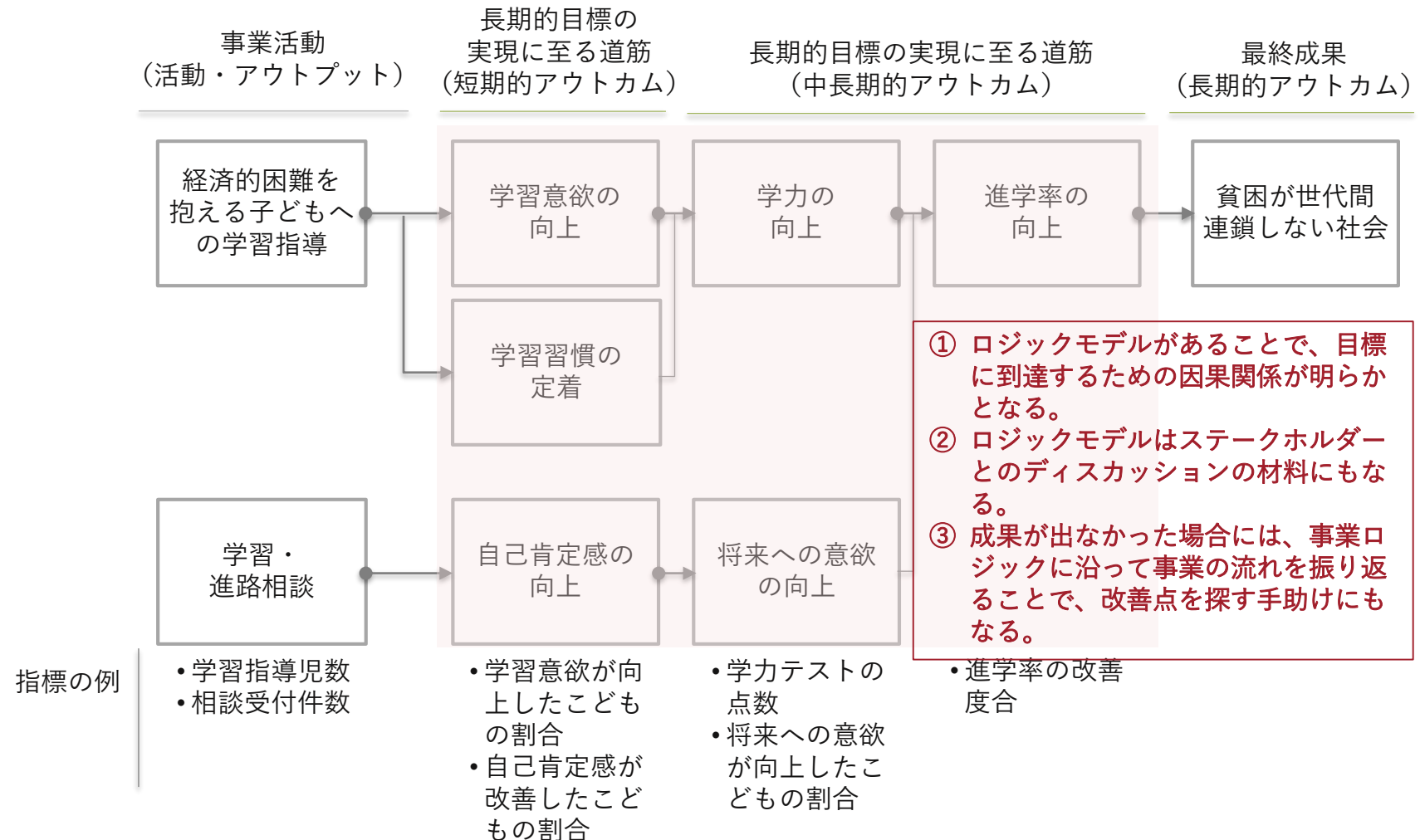
3-2. ロジックモデル例（例：子供の貧困解決事業）



3-3. ロジックモデルが無いと...



3-4. ロジックモデルがあることで...



4-3. ロジックモデルの作り方（１）最終成果の設定

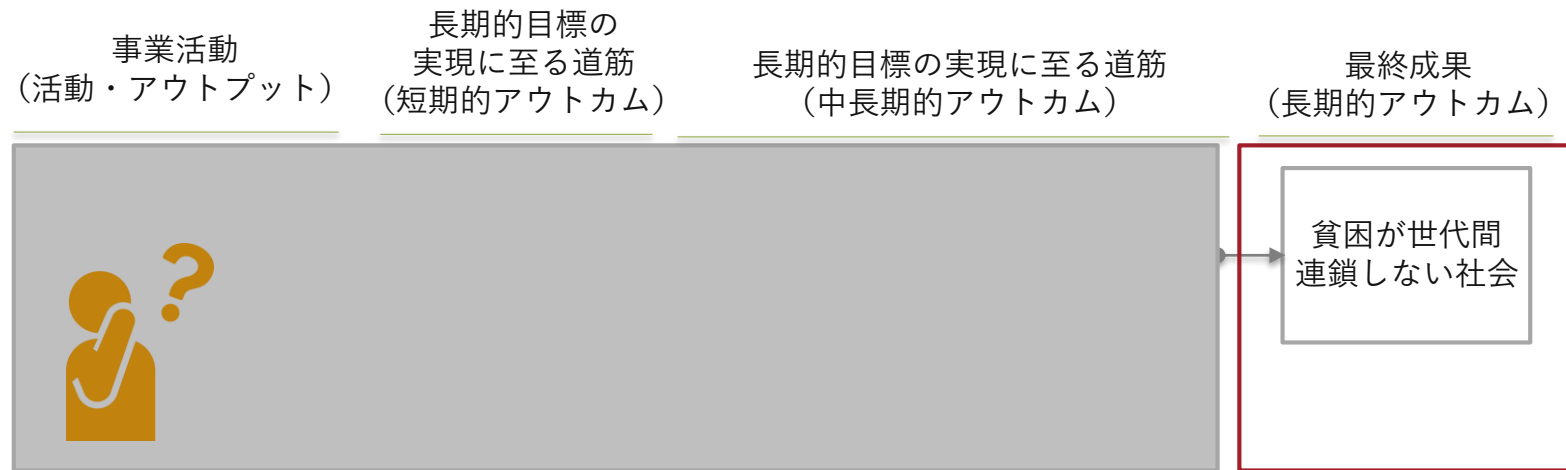
【最終成果（長期的アウトカム）を考える時の問い】

- 最終的に目指すゴールはどんな状態ですか。
- 起こしたい社会的な変化はどのようなものですか。

【STEP 1】

- 上記の「最終成果（長期的アウトカム）を考える時の問い」を参考に、自分たちの事業において目指す理想の状態を検討する。（複数の場合は、全て書き出す。）

（例）貧困が世代間連鎖しない社会



STEP 1 で作成している部分 ↑

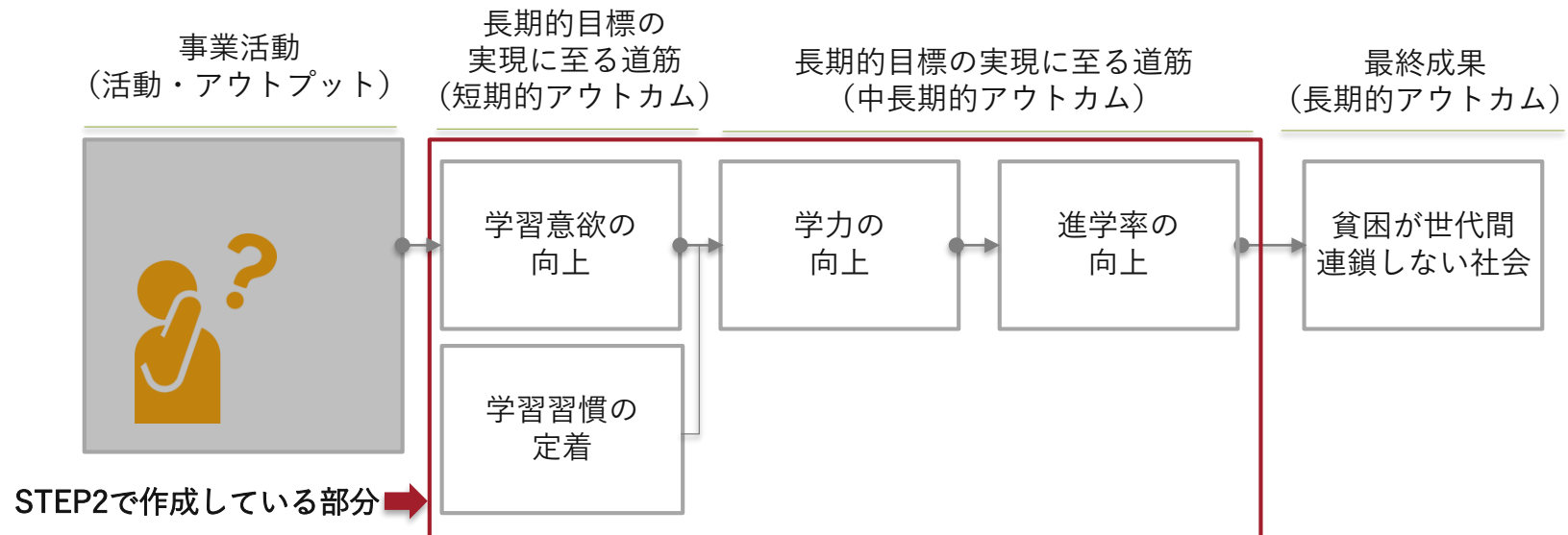
4-3. ロジックモデルの作り方（２）アウトカムの設定

【短期、中長期アウトカムを考える時の問い】

- 最終成果（長期的アウトカム）に向けて、どのようなステップで変化が起こっていきますか。
- 事業によって生産されたサービス・製品によって向上した消費者の便益はなんですか。
- 提供されたサービスによって解決された社会的課題はなんですか。

【STEP 2】

- 上記の「短期、中長期アウトカムを考える時の問い」を参考に、「目指す最終成果（長期的アウトカム）」に向けて、どのような変化が起こりうるかを書き出す。（複数の場合は、全て書き出す。）（例）学習意欲、学力の向上等
- 書き出した後に、その変化が起こる順番に並び替える（因果関係の整理を行う）



4-3. ロジックモデルの作り方（3）アウトプットの設定

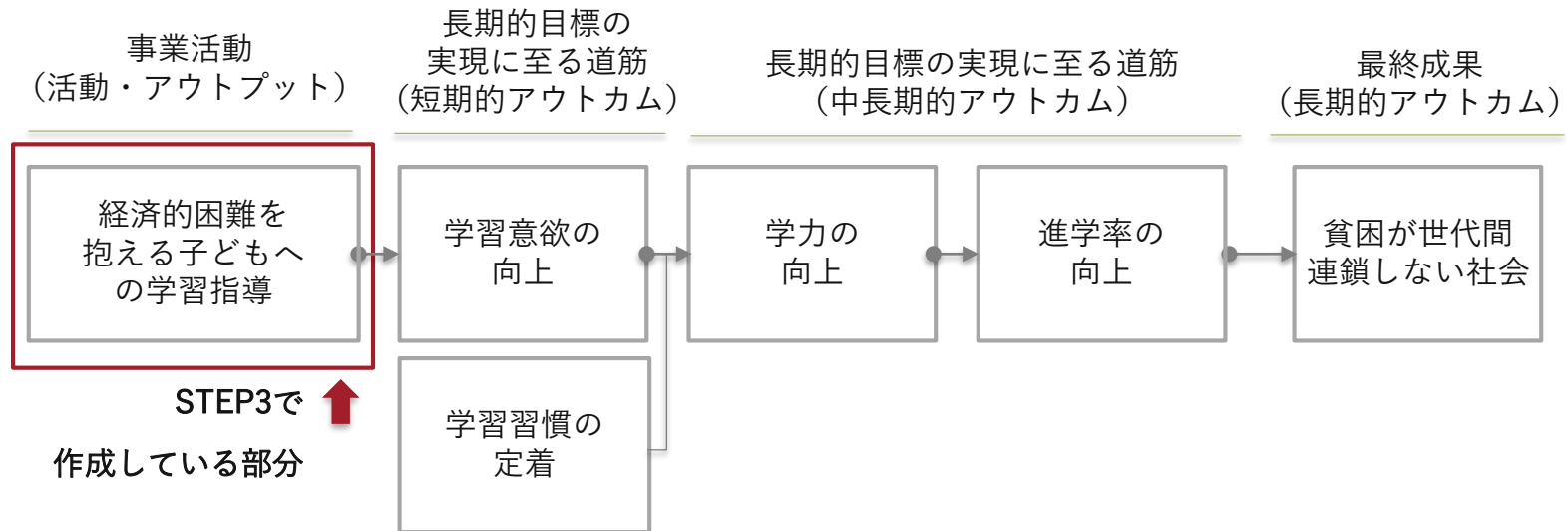
【アウトプットを考える時の問い】

- ・ 事業の実施の結果、発生する活動や生産物は何ですか。（モノ・サービス等）
- ・ アウトプットは、事業によって生産された製品、提供されたサービスの他に、調査によって得られた知見も含まれます。

【STEP3】

上記の「アウトプットを考える時の問い」を参考に、どのような活動を実施するかを書き出す。（複数の場合は、全て書き出す。）（例）学習意欲の向上、学力の向上、進学率の向上等

書き出した後に、活動・アウトプットはSTEP 2 で設定したアウトカムに直接的な因果関係があるかを確認する。



4-3. ロジックモデルの作り方（４）チェックポイント

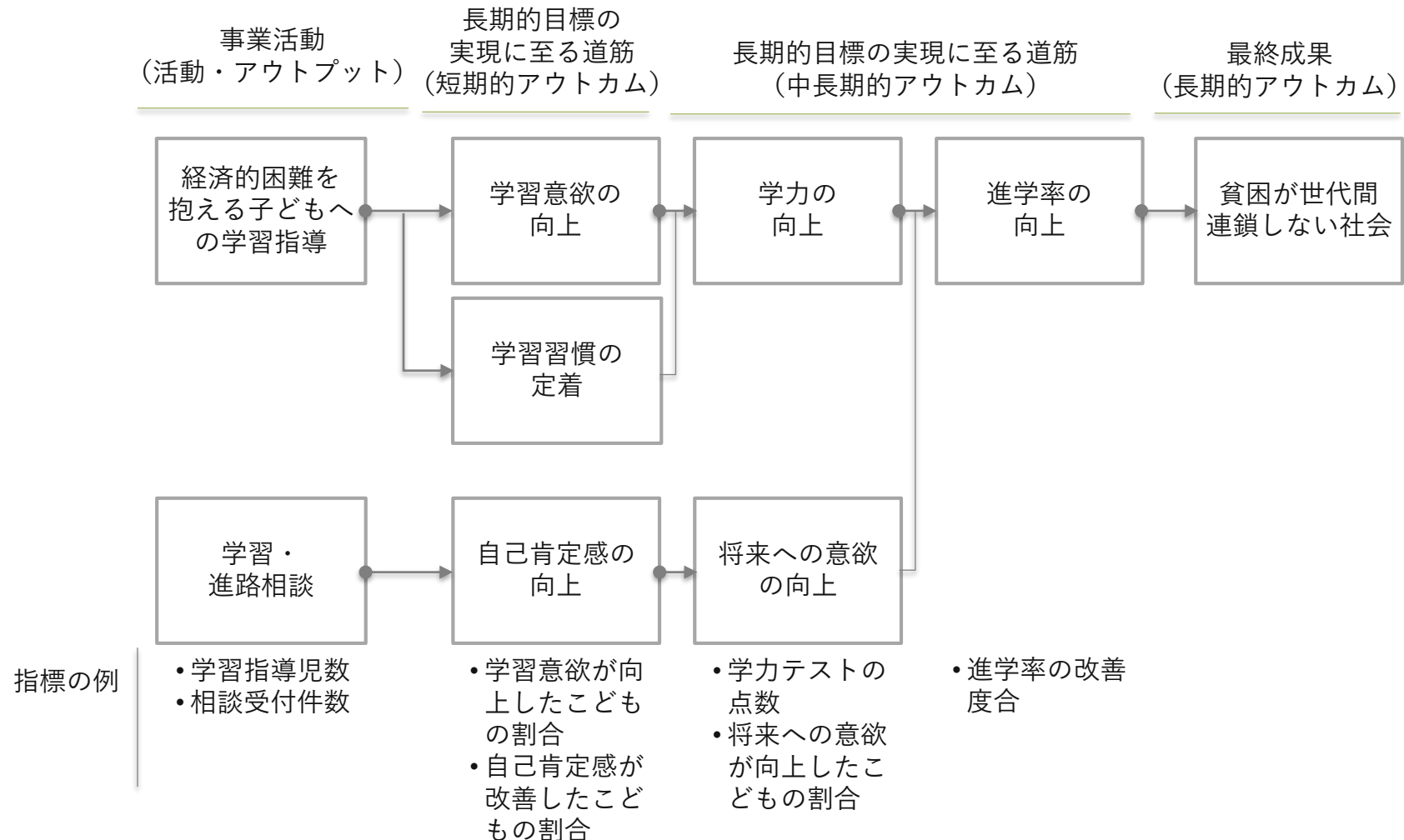
【ロジックモデル作成後にセルフチェックするための問い】

- 最終アウトカムは団体のミッション・ビジョンと同期していますか。
- インプット→アウトプット→アウトカムは、本当に有効な連関になっていますか。アウトカムの実現のために、現在のアウトプットは本当に必要ですか。他に有効な手段はありますか。
- アウトプットを実現するために、インプットは有効に活用されていますか。アウトプットを最大化するためにはどうしたらよいですか。

【STEP4】

上記の「ロジックモデル作成後にセルフチェックするための問い」を参考に、作成したロジックモデルは、事業目標に到達するまでの論理的な構造および因果関係として図示されているかどうかをセルフチェックします。

4-3. ロジックモデル例（例：子供の貧困解決事業）



3-7. 評価ステージに基づく評価の手順

評価は、以下の3回に渡って実施されます（追跡評価を実施する場合には全4回）。それぞれの時期に重点的に実施する分析内容は以下の通りです。（この他にも、見直しや振り返りなどを適宜実施します。）

	事前評価	中間評価	最終評価	(追跡評価)
	2020年4月	2021年8月	2023年1月	調整中
課題の分析	◎			
事業設計の分析	◎			
実施状況の分析		◎	◎	
アウトカムの分析			◎	◎

※各分析内容の詳細（「課題の分析」はどのように実施するのか等）については、後述いたします。

社会的インパクト評価および報告実施時のサポートについて

実行団体が社会的インパクト評価を行い、報告を実施する際には、事前に「社会的インパクト評価研修」を実施します。研修は、事前評価、中間評価、最終評価をそれぞれ実施する前に1回ずつ、合計3回を予定しています。

また、各評価の実施時期については、資金分配団体と相談の上、最終的に決定されます。

【参照】

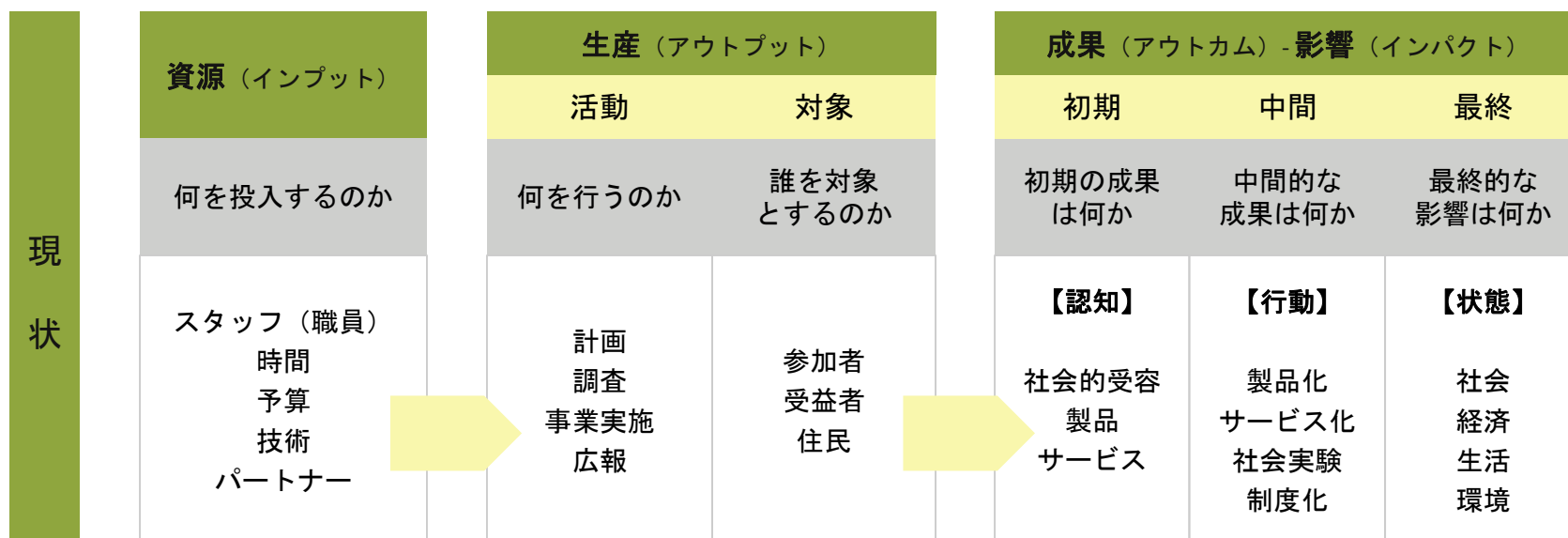
一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)公募説明会資料②2019年度資金分配団体公募説明会 第2部「評価」に関する説明



小難しく考えすぎず、「より良い事業」を創るために
この機会をポジティブに活用する
お手伝いをさせていただけたら幸いです。

(参考) ロジックモデルによるアウトカムの把握

どのような社会的介入（インプット）が、期待する社会的影響（インパクト）を達成するのか、
アウトプット - アウトカム - インパクトの段階に分けてのプロセスにより分析する。



インプット・アウトプット・アウトカムの各段階での変化を測ることで、
エビデンスに基づいた施策の効果を想定することが可能。

3-5. 定量分析、定性分析とは

○ 定量分析とは

- 定量的データとは、年齢や居住年数といった、最初から数値的なデータとなっている情報だけではなく、「性別」や「参加者満足度」など質的データを量的データに変換したものも指します。
- 例えば、参加者満足度は「参加してみてどうでしたか」と質問をするとコメント（定性データ）となりますが、「参加してみてどうでしたか。満足度を5段階評価でお答えください」とすると、量的なデータとして分析に使用することができるようになります。

○ 定性分析とは

- 定性的データとは、個別事例（エピソード）やインタビューによるコメント等、定量的に表す必要のないもの、表せないもの、質的なデータを指します。
- 例えば、事業によって生み出された優良事例について、詳細を掘り下げ、成功要因やその背景を分析するケーススタディ分析などがその例です。

○ 定量データを取るのが負担…定性分析のみで社会的インパクト評価は可能？

- 社会的インパクト評価における定量分析と定性的分析は、どちらか一方が優れている、もしくは一方を行えば良いというものではありません。定量的評価は、量的なデータを分析することで全体傾向を把握することに役立ち、定性的評価はその結果を裏付けたり、解釈をすることに役立つなど、相互に補完し合います。事業内容、目標、誰に報告するのかといった事を総合的に勘案しながら、2つの分析をバランスよく取り入れることが重要です。

3-6. 定量分析と定性分析の特徴まとめ

	特徴	適しているケースの例
定量データ	・ データそのものが数値で表されているものを指す ・ 現象を量的に把握したり数値により何かを測定したい時に使用する ・ 定性データを定量データに変換することも可能	・ 実績や達成度を測定する ・ 大人数を対象に調査をする ・ 確立した測定方法がある ・ 統計分析を使う
定性データ	・ 現象を記述的に把握したものを指す ・ より詳細な情報を掘り下げることが可能	・ 詳細な個別情報を調査する ・ 定量化する必要がないものを記述（事業の実施プロセス情報など） ・ 個別事例（エピソード）を記述

【参照】

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）公募説明会資料②2019年度資金分配団体公募説明会 第2部「評価」に関する説明

3-8. 評価の力点の違い

社会的インパクト評価は、対象となる事業の規模や内容によって評価の力点に違いを設けることが認められています。特に草の根支援活動事業においては、評価指標を絞り込むことが認められ、また過度に定量的な分析を求めないと定められています。一方で、事業が生み出した社会的インパクトを正しく把握し、事業改善に生かすという目的と照らし合わせると、全ての分析を定性分析とするのではなく、定量分析とのバランスをとった社会的インパクト評価を実施する必要があります。

草の根支援活動事業

- ・ 事業内容や規模によっては、指標の数を絞り込む、定量的な測定・分析は過度に求めず、定性的な分析を中心とした把握をする。
- ・ 事業が確立していない場合は、実施状況の分析に力点を置くなど評価の力点を柔軟に設定する。
- ・ 具体的には、「学びや知見が蓄積されているか」、「他組織との連携・協働は進んでいるか」、「組織とその活動への参加主体は増加・多様化しているか」などの点を重点的に検証すること等が考えられる。

災害支援事業

a) 防災・減災支援に向けたNPO等の各種団体の活動の推進

- ・ 実施状況分析では「組織基盤強化としてのネットワークの構築」や「地域単位での防災意識の向上」等を検証する。
- ・ アウトカムの分析では「地域の災害対応力（レジリエンス）が向上したか」等に力点をおくことが重要である。

b) 緊急支援、災害復旧・生活再建支援に向けたNPO等の各種団体の活動の推進

- ・ 災害が発生した際に迅速かつ適切に動けるように事前評価に力点を置く。
- ・ 課題の分析では、組織の状況やニーズの把握を行うこと。
- ・ 事業・評価計画では災害が起きた際の連携・調整を具体的に想定し、実施状況の分析ができるようにしておくことが重要となる。



4.申請時の社会的インパクト評価計画 ～ロジックモデルの作り方～

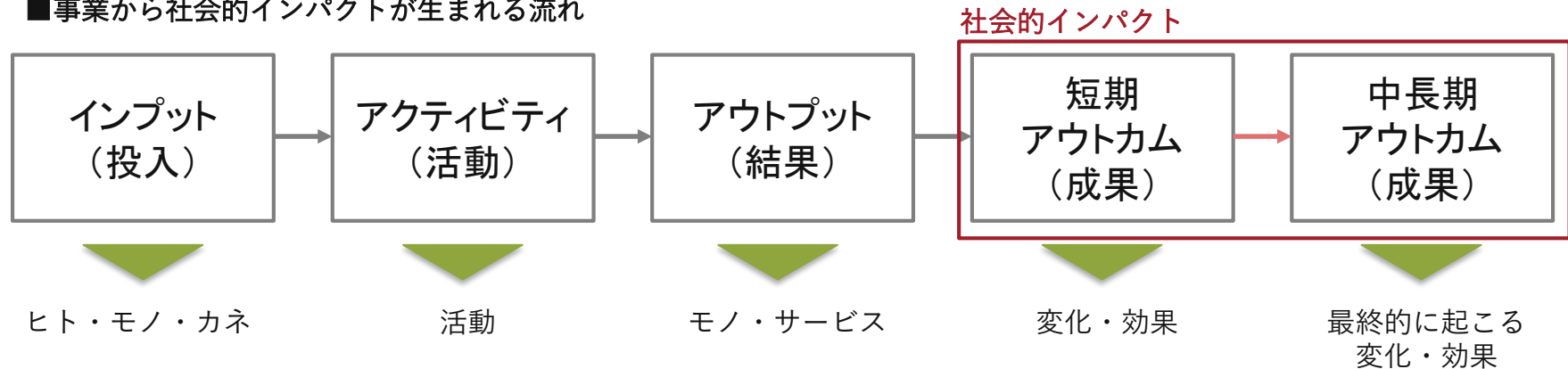
4-1.申請時の社会的インパクト評価計画について

- 申請時には、事業計画書の一部として、当法人が定める社会的インパクト評価に使用するロジックモデルを提出いただきます。本章では、ロジックモデルの作り方を解説していますが、ご不明な点については資金分配団体のプログラム・オフィサーまでご相談ください。
- なお、審査時には社会的インパクト評価計画（ロジックモデル）も審査項目の一つとなりますが、申請時にロジックモデルが不完全であっても採択後の研修において修正等のサポートを実施予定です。出来る範囲でご記入ください。
- また、事業の結果・成果・社会的インパクトの関係性が論理的に整理され、図示されているものであれば、ロジックモデル以外のものを用いても構いません。（社会的インパクト評価を始めて実施する方にはロジックモデルの作成を推奨します。）

4-2.インプット、アウトプット、アウトカム

① インプット、アウトプット、アウトカム、インパクトとは？

■事業から社会的インパクトが生まれる流れ



(例)

事業の実施

プログラム、
サービスの実施

参加者の心理的
変化等

社会課題の改善、
解決

(例)..
就労支援事業

- ・ 就労支援プログラムの実施に必要な
 - 講師
 - 研修教材
 - 研修場所、等

- ・ 就労支援プログラムの開発
- ・ プログラム参加者の募集、等

- ・ 就労支援プログラムの実施

- ・ 就労に必要なスキルの習得
- ・ 就労意欲の向上

- ・ 継続的な就労の実現

日本財団「ロジックモデル作成ガイド」を元に一部改変

4-2.インプット、アウトプット、アウトカム

② アウトプットとアウトカムの違い

アウトプットとアウトカムは、混同されやすいですが例えば以下のように整理することができます。

プログラム（例）	アウトプット（例）	アウトカム（例）
児童の交通安全教育	・ 児童向け交通安全教室の実施 ・ 交通安全パンフレットの配布 ・ 保護者向け意識啓発動画の作成	児童の安全意識の向上
高齢者の見守りプログラム	・ 他サービスと連携した高齢者宅訪問活動 ・ ヘルパー利用のための家族向け説明会の実施 ・ 住宅内の危険箇所点検運動（転倒防止等）	高齢者の安心・安全の確保
ニート・フリーター向け就業支援	・ 就労支援プログラムの実施 ・ 証明写真撮影会 ・ 面接用スーツの貸し出し ・ 保護者向けコミュニティの場の運営	就業率の向上

平たい言葉で解釈すると、

アウトプット＝実施した事業（事業の実施内容）

アウトカム＝実施した事業によって発生した成果

という事ができます。

4-4. (参考) 社会的インパクト評価表

採択後に、作成したロジックモデルを元にして、以下のような社会的インパクト評価表を作成します。

評価表の設定（アウトカムの分析） （例）高齢者ケア事業の社会的インパクト評価表

アウトカム (概要)	アクティビティ (活動、事業内容)	アウトプットの 指標 (事業実施 の指標)	アウトカム詳細	アウトカムの測定 方法	アウトカムの評価指標
高齢者の孤立 の解消	空き家を活用した サロンの実施	- 参加人数 - 開催回数	高齢者の社会関係の質と量が向上することで生活の質 (QOL) が高まる	(定量) - 生活の質 (QOL) の向上 (定性) - 高齢者へのインタビュー - コミュニティ観察	- EQ5Dスコア - 過去1週間に会話をした人の数 - 高齢者の外出回数
高齢者の健康 寿命の延伸	サロン活動における運動や健康指導の実施	- 運動参加人数 - 指導の延べ回数	- 慢性疾患の症状の緩和 - 受診回数の減少	- 頻回受診の減少 - 投薬量の減少 - 本人主訴による健康実感	- アンケートによる受信回数や投薬内容の変化 - 主観評価による健康度合
介護コストの 低減	N/A (健康寿命の延伸による成果)		本人、自治体の保険組合の介護コスト負担の軽減	介護保険データからの分析	減少した負担金額

5.採択後の社会的インパクト評価の実施内容

5-1.社会的インパクト評価研修の実施

社会的インパクト評価の研修の実施

社会的インパクト評価研修は、評価の手法を学び、また採択された実行団体同士の学び合いを行う場として、採択期間中に全3回に渡って設定されています。実施時期は以下の時期を予定しています。（変更の可能性あり）

時期	日程
事前研修	R元年度3月（2020年3月）
中間研修	R3年度7月（2021年7月）
最終研修	R4年度12月（2022年12月）

研修内容

研修会では、以下のような内容を研修することを想定しています。

- ・ 社会的インパクト評価の基礎知識習得
- ・ ご自身のプロジェクトを題材としてワークを実施
- ・ 社会的インパクト評価の結果を用いた事業の改善案の作成

いずれの研修でも、研修の内容を使用して、資金分配団体に社会的インパクト評価を提出することを目指します。

※研修から約1か月後に社会的インパクト評価の報告書を資金分配団体に提出する必要があります。

6.社会的インパクト評価に関する良くある質問（FAQ）

6-1.社会的インパクト評価に関する良くある質問

○ 社会的インパクトを生み出すには、長期間の取り組みが必要ですか？短期間のプロジェクトでは社会的インパクトを生み出すことはできませんか？

- いいえ、社会的インパクトは、短期、長期のどちらの取り組みであっても生み出すことができるものです。
- 社会的インパクトとは、「事業を実施したことで起きた変化」、また「社会に生み出された便益」の事を指すため、「長期間をかけなければ生み出せないもの」ではありません。短期間の活動であっても、事業が対象とする社会やコミュニティに変化や便益が生まれていれば、それは社会的インパクトと考えることができます。

○ 社会的インパクトを生み出すためには、多額の資金の投資や、多くのステークホルダーが関わるような大規模プロジェクトでなければなりませんか？小規模のプロジェクトで社会的インパクトを生み出すことはできませんか？

- いいえ、社会的インパクトは、大規模、小規模、どちらの取り組みからでも生み出すことができます。
- 「社会の変化」と考えると「大規模な取り組みでなければ、社会的インパクトを生み出せない」と感じるかもしれません。しかし、社会的インパクトは、小さな取り組みであっても生み出すことができます。それは、前項の考え方と同様に、「事業が対象とする社会やコミュニティに変化や便益が生まれていれば、それは社会的インパクトと考えることができる」からです。そのため、小規模な事業だからといって社会的インパクトを生み出せない、ということではありません。

【参照】

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)公募説明会資料②2019年度資金分配団体公募説明会 第2部「評価」に関する説明

6-1.社会的インパクト評価に関する良くある質問

○ 社会的インパクトは、数値的な結果のみを指しますか？

- いいえ、社会的インパクトは、定性的、定量的（数値的）、両方の成果を指します。
- 社会的インパクトというと、定量的（数値的）に測れるもののことをイメージされる方も多いかもしれませんが、「社会の変化や便益」には定性的なものが多数あります。そのため、定性的な成果も測り、事業成果として明らかにすることが大切です。また、定性的、定量的どちらかに偏って考えるのではなく、事業に合わせてバランス良く選択することで、社会的インパクトを正しく捉えることができるようになります。

○ 社会的インパクトとは、「良かったこと」、「ポジティブな成果」のみを指しますか？

- いいえ、社会的インパクトは、「ポジティブ」な成果だけではなく、「ネガティブ」な成果にも着目します。
- 社会的インパクトは「ポジティブな成果（良かったこと）」だけを指すのではなく、「ネガティブな成果」にも着目します。事業によって、環境や社会にとって不都合な事態が生じていないか、または悪影響が生じていないかといった点を考慮することで、事業改善に生かすことができます。

【参照】

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）公募説明会資料②2019年度資金分配団体公募説明会 第2部「評価」に関する説明